

令和7(2025)年7月25日	資料2-2
令和7(2025)年度第1回宇都宮地域医療構想調整会議並びに 宇都宮構想区域病院及び有床診療所会議 合同会議	

宇都宮圏域における将来医療需要推計等について

栃木県保健福祉部医療政策課

1 取組の概要

取組の方向性

宇都宮区域対応方針に基づく取組の一環として、宇都宮構想区域における**将来の医療需要や医療機関及び介護施設の役割分担に関する検討に向けた現状の把握を目的にデータを整理**していくもの

ランドデザイン・区域対応方針との関係

ランドデザイン・区域対応方針

- 宇都宮構想区域においては、他の構想区域（特に県北、県西区域）から流入する患者への対応も前提とした上で、必要な医療提供体制を確保する。
- 医療・介護データの分析等により患者流入状況を把握し、宇都宮構想区域で対応すべき必要量について検討を行う。
- 2040年に向けて、区域内の医療機関間、医療機関・高齢者施設間の機能分化・連携の体制を明確にする
- 医療機関と介護施設の役割・機能分担の内容及び範囲を明確にし、医療介護提供体制（入院・外来・救急・在宅医療（療養）等）の見える化を図る

分析テーマ

- 他圏域との流出入を踏まえた将来の入院医療の推計 など
- 入院医療において医療機関が担っている病床機能
- 医療機関間の患者の転院
- 医療機関と介護施設間の患者の移行状況 など

想定しているデータ

- 宇都宮区域における将来の他圏域からの流入を踏まえた将来の入院需要の推計
- 疾患別の将来の入院需要の推計
- 病院ごとの将来の入院需要の推計 など
- 医療資源投入量や在院日数などのデータに基づく、各医療機関が担っている機能の見える化（ポジショニングマップなどをイメージ）
- 医科レセプトデータを活用した病院間、病診間の患者の移行状況、患者の属性など
- 医科レセプトと介護レセプトデータの連結データを活用した、医療機関と介護施設間の患者の移行状況、患者属性など

今回の取組について

- ✓ 今回は、上記の「想定しているデータ」のうち、①～④について、今後のデータの整理に向けた分析イメージを共有するもの
- ✓ 今回お示しするものは、分析対象が限定されており、分析に向けた各データ項目の定義づけ・解釈にも課題が残ることから、引き続き、分析手法は検討
- ✓ 分析のイメージを踏まえ、今後、分析を想定しているデータについて、追加で分析したほうが良いデータなど幅広く御意見を伺いたい

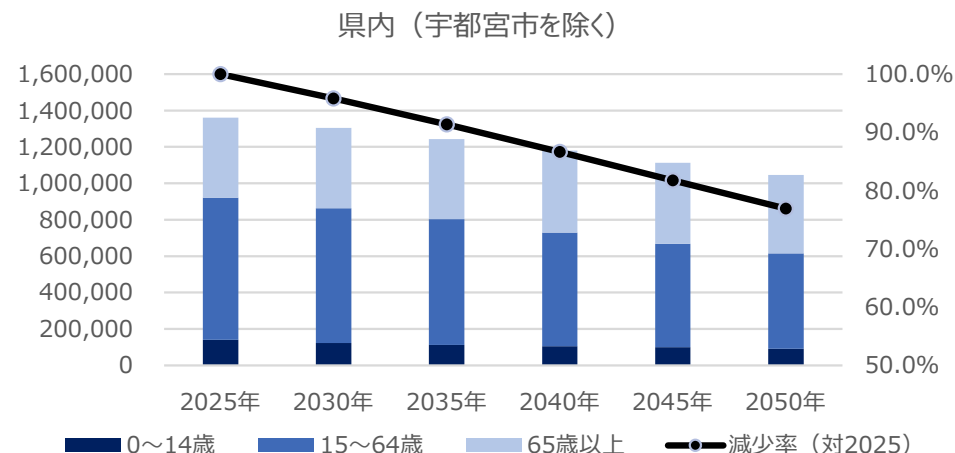
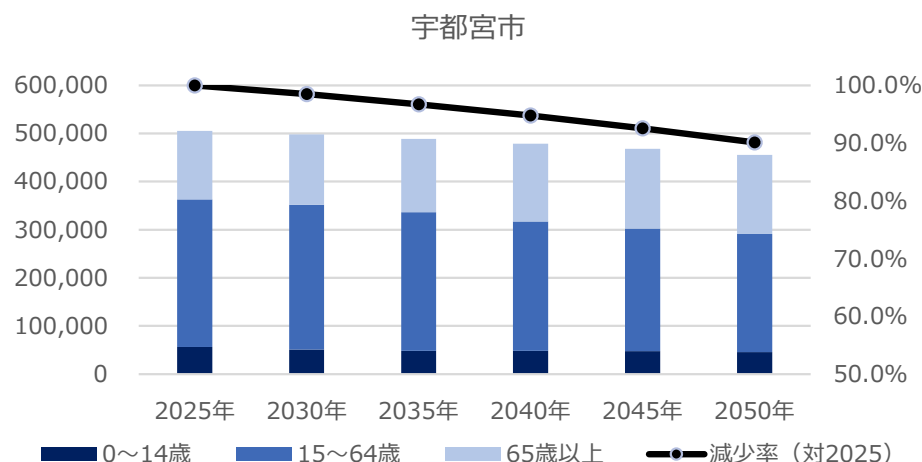
2 将来の入院医療の需要推計

分析に当たっての留意点

- ・ R4年度の県内全66病院のDPCデータの入院患者(186,879件)それぞれに、性別・年齢・居住地域別の人口変化率をかけ合わせ、機械的に将来の入院患者数の推計値を算出したもの
- ・ 居住地域については、県内・近県は市町単位、その他は都道府県単位での人口変化率を採用
- ・ R4年度の入院患者数を固定値として将来の人口変化率を掛け合わせているため、今後も同じ年齢・性別では同じ疾患の医療需要・受療行動があることを前提としている
- ・ 医療提供側の変化（医療施設の新設・廃止など）は、考慮していない

（参考）宇都宮圏域及び宇都宮圏域以外の人口推計

- ・ 宇都宮圏域における人口減少率は、2025年から2050年にかけて、約10%ほど減少
- ・ 一方、宇都宮市を除く市町人口は、2025年から2050年にかけて、約25%ほど減少
- ・ 宇都宮圏域への流入患者数の推計では、宇都宮市以外の市町の人口の減少も影響している（後述）



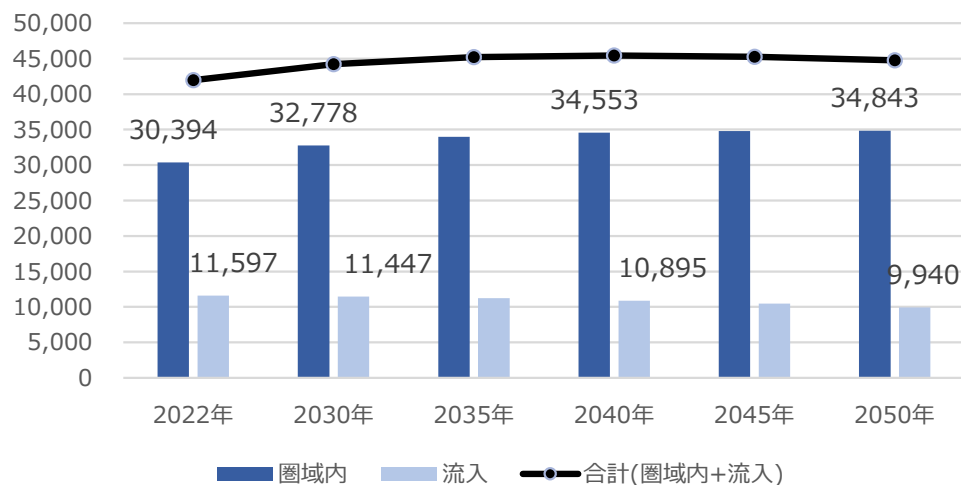
（出典）国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（令和5（2023）年推計）

2 将来の入院医療の需要推計

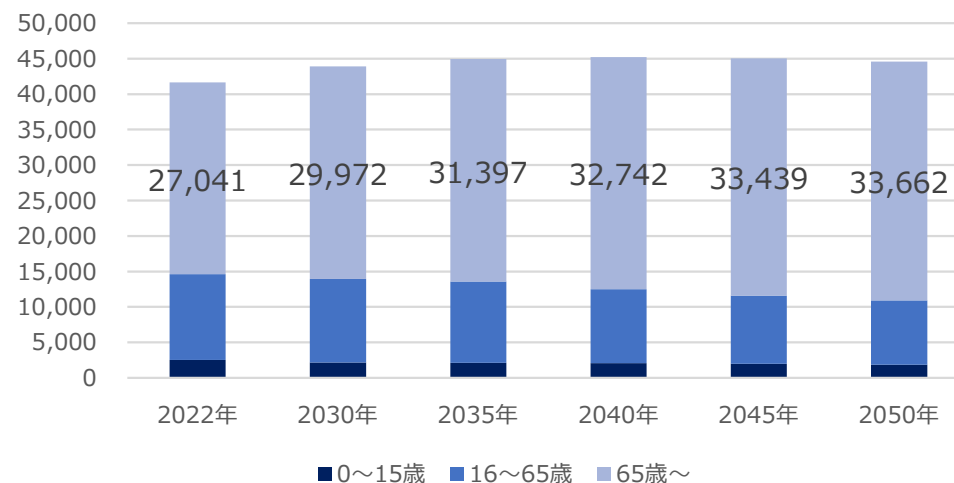
宇都宮圏域における流入を踏まえた入院患者数の推計

- 宇都宮圏域における入院患者数は2040年に向けて増加する見込みであり、主に高齢者の入院医療の需要が増加
- 圏域内の患者は、2050年に向け一貫して増加する見込みである一方、流入患者は、一貫して減少していく見込みである（流入元市町の人口減少による影響もあるものと推測）
 - 今後の宇都宮圏域の入院需要増加は、主に圏域内に住む患者の需要増加によるものと推察される
- 今後の流入患者の推計を踏まえた宇都宮圏域の医療提供体制を検討の参考データとして活用を想定

宇都宮構想区域の入院患者数推計



年齢階級別の入院患者数推計（圏域内＋流入）

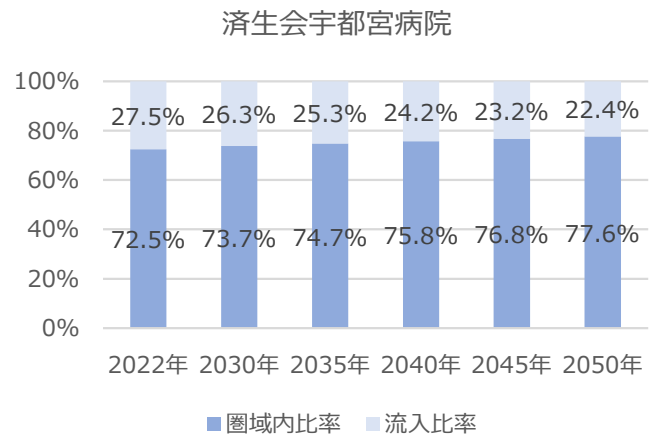
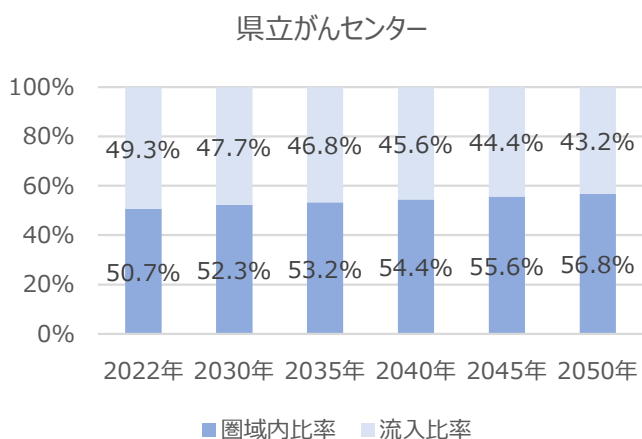
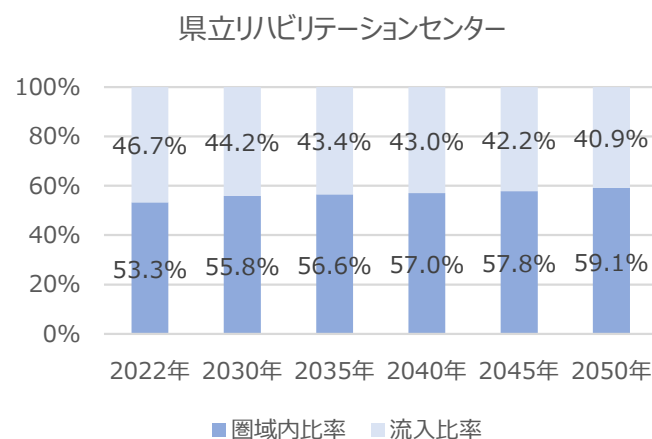
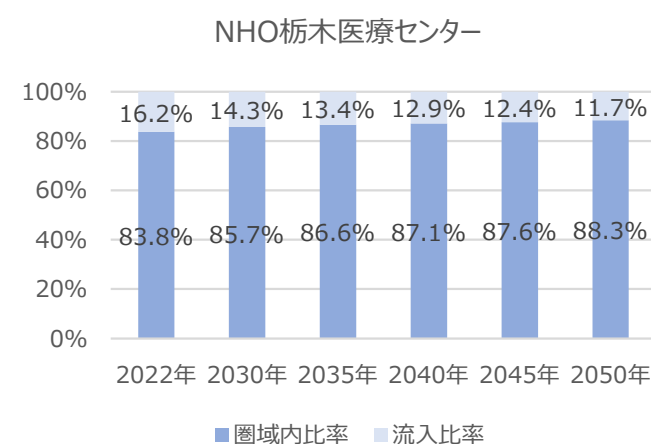
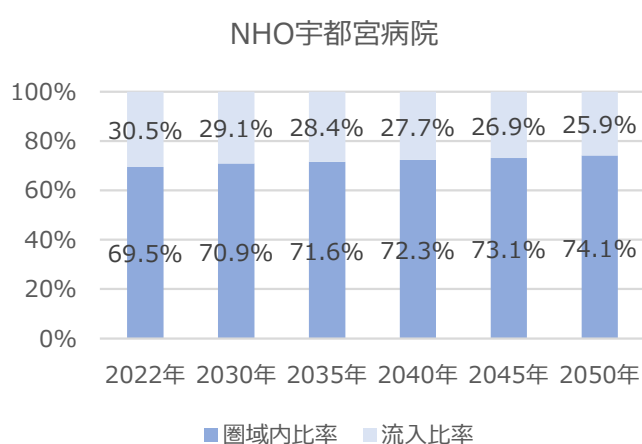
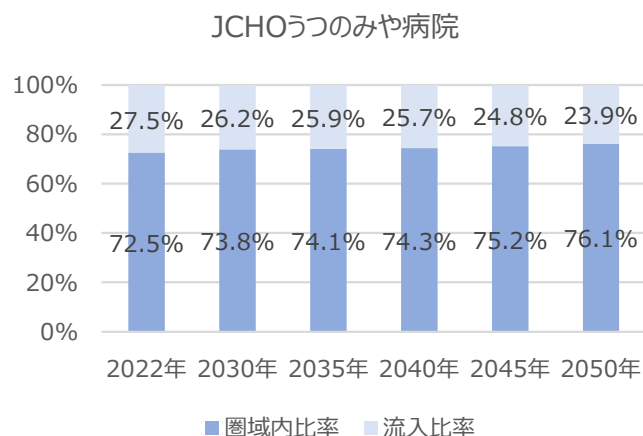


2 将来の入院医療の需要推計

病院ごとの入院患者の推計（抜粋）

- いずれの病院も、圏域内の患者が多く入院している傾向が見られるが、**圏域内の患者と流入患者のバランスについて、医療機関によっても違いが見られる**

病院ごとの流入患者比率の推計



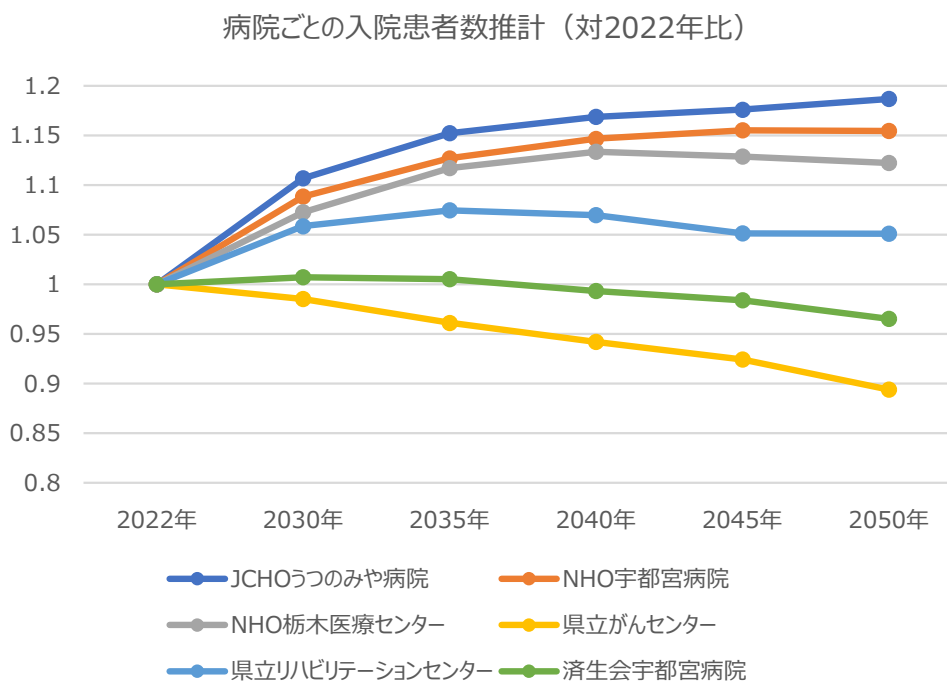
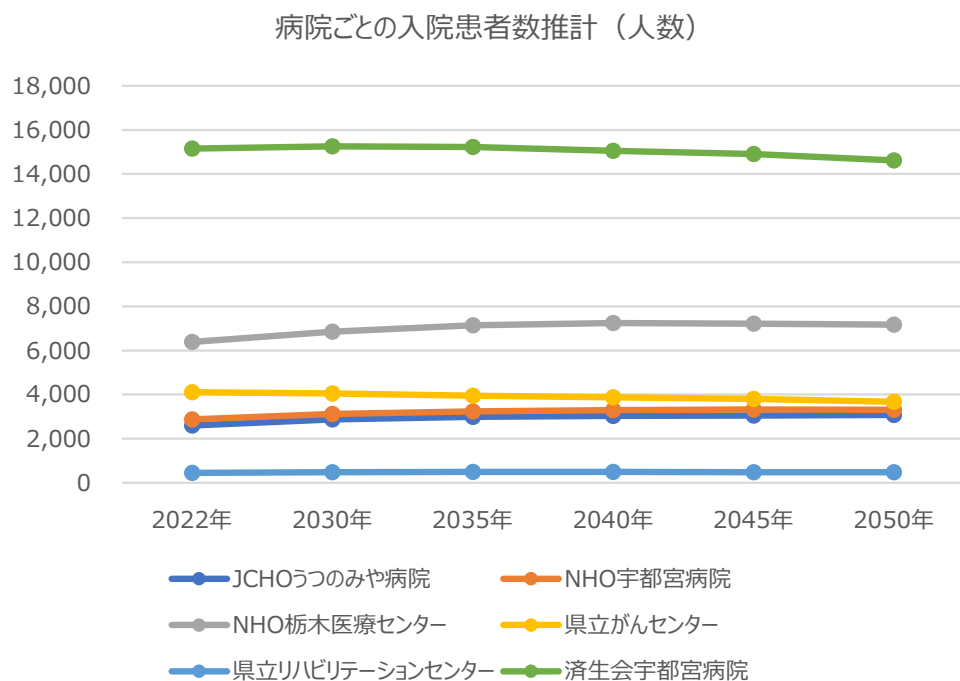
※あくまでR4年度の入院患者数を固定値として将来の人口変化率を掛け合わせているため、**今後も同じ年齢・性別では同じ疾患の医療需要・受療行動があることを前提**としている

2 将来の入院医療の需要推計

病院ごとの入院患者の推計（抜粋）

- 特に、**流入患者の構成比が比較的高い病院**（県立がんセンター、県立リハビリテーションセンター）については、**入院患者が横ばいまたは減少**することが見込まれ、**圏域内の患者の比率が高い病院は、入院患者数の増加が見込まれる**
- 65歳未満の患者の割合が比較的高い病院**（済生会宇都宮病院）は、**今後の若年層の人口減少による影響を強く受ける**ため、流入患者の比率が比較的低いものの、**入院患者数は減少傾向**にある
- 今後は、分析対象の医療機関を増やし、疾患別などの視点も加えながら、各医療機関がどのように医療需要に対応していくかを検討できるように、引き続き、より精緻なデータを整理していきたい

病院ごとの入院患者数の推計



※あくまでR4年度の入院患者数を固定値として将来の人口変化率を掛け合わせているため、**今後も同じ年齢・性別では同じ疾患の医療需要・受療行動があることを前提**としている

3 入院医療における医療機関が担っている機能の見える化

医療資源投入量及び平均在院日数からの分析（抜粋）

- 医療資源投入量と平均在院日数から病院ごとの入院件数を整理し、各病院が主にどの医療機能を担っているか整理するものであり、今回は、今後の分析のイメージとして提示
- 今回、宇都宮圏域の比較的規模の大きい病院について見ると、1つの病院で高度急性期から慢性期にかけて幅広い機能を担っていることが分かる
- 類似した医療機能を有する病院の間でも、平均在院日数などに違いが見られ、幅広い観点からその要因を分析していく必要がある（入院理由による違いなど）
- 今後、分析対象を広げ、各医療機関が担う医療機能を踏まえた医療提供体制の検討に向けて、引き続き、整理していく

